

☆患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院で活躍することができるために、基本的な薬物療法及び地域保健医療に参画する実践的能力を修得する

☆代表的な8疾患（がん、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫アレルギー疾患、感染症）を薬局実習を通じ、体験として学ぶ

実習項目	実習内容	期間	評価
全ての実習項目で共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ○医療人としての心構えを理解する ○地域保健医療における薬局の役割を体験し、理解する（健康サポート機能、かかりつけ薬局） ○薬物療法におけるリーダーシップを発揮できる ○医療安全管理（リスクマネジメント）を理解する 	全期間 を通じ	ルーブリック評価
薬局実習導入	<ul style="list-style-type: none"> ○薬局の構造設備、薬局における関連法規及び業務の流れを理解する ○各種保険算定要件や医薬品の供給と管理について理解する 	1週間	ルーブリック評価
保険調剤と薬局製剤 内服、外用、*注射（TPN）、製剤	<ul style="list-style-type: none"> ○保険調剤業務 ・処方受付から監査・調剤、疑義照会、患者応対までの保険調剤を体験する ・各種保険算定要件や医薬品の供給と管理について具体的に体験する ○薬局製剤について製剤体験及び販売を行う 	3-4週間	ルーブリック評価
薬学的管理指導業務の実践 （薬物治療支援業務実践）	<ul style="list-style-type: none"> ○疾患と薬物療法 ・代表的な疾患（がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、感染症等）について、患者の病態生理、薬物治療方針を理解する ○患者情報の把握 ・処方せん調剤、在宅医療、要指導医薬品・一般用医薬品販売などにおいて患者や来局者個々の情報を的確に収集・整理し、薬物療法全般に活かす体験をする *代表的な8疾患のうち、最低3疾患以上は患者対応について学生が体験実習として学べる環境を整える。ただし、主疾患でなくてもよい。がんについては病院実習で学ぶことも可能 ・問診や得られる検査値等から患者の状態を把握し適切な薬物的管理を考察する ・服薬情報の一元的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導を体験する ○医薬品関連情報の活用（情報の収集、吟味、加工） ・施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、実際の患者、来局者、施設スタッフに適切な医薬品情報を作成して提供する 	5.5-6.5 週間	薬物療法の実践に関わる項目 ⇒ルーブリック評価
*在宅医療及びプライマリ・ケア、セルフメディケーション実習はこの一環として実施する	<ul style="list-style-type: none"> ○処方設計と薬物療法の実践 ・患者の薬物治療に継続的に関わり、患者の病態を推察し、より有効で安全な薬物療法について考察したり、必要があれば処方医に提案する。さらに、患者アドヒアランスに関する問題を発見し解決策の提案を実践する。また、患者背景、病態、治療薬、治療法に関する情報等を基に、薬物治療を考察し、その治療効果及び副作用のモニターと評価を体験する 		在宅・プライマリ・ケアに関わる項目 ⇒実習日報
*地域におけるチーム医療はこの一環として実施する	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療と地域における連携医療 ・薬局薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験する ・処方せん調剤における医療機関と薬局との連携（薬業連携）や地域包括ケアや保健所等を通して地域で連携を体験する 		
*必要に応じて薬剤師の視点から医師、看護師、介護支援専門員等へ照会・提案するまでを行う	<ul style="list-style-type: none"> ○プライマリケア、セルフメディケーションの実践 ・実際の店頭での来局者の健康相談を体験し、指導薬剤師と一緒に来局者個々の症状や生活習慣、環境などから受診勧奨（トリアージ）や要指導医薬品・一般用医薬品販売などの対応を体験する 		
地域保健・衛生への参画	<ul style="list-style-type: none"> ○学校薬剤師を体験する ○災害医療を理解する ○地域における保健衛生活動（薬物乱用防止活動、禁煙活動、健康相談、認知症サポートなど）を体験する 	0.5週間	実習日報